

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

一

けんたが学校に着くと、もうすでに同級生のほとんどみんながきているようだった。

「けんた、今日くるのおそいぞ」

シンユウのけいすけがかけよってきて、けんたのかたに自分のかたを軽くぶつけながらそう言った。

「いてーなあ」

けんたは口を(①)、しかえしにけいすけのかたに自分のかたをぶつけてやった。そんな風に二人がじゃれあっていたら、まもなくキーンコンカーンコンとチャイムがなった。

「もうアサの会だ。」

けいすけが言って、二人は急いでそれぞれの席について。

一時間目は算数で、それがおわると生活科だった。その日の生活科の内容は「学校探検」だった。それは、学校の全体を見てマワッテ、どんなものがあるかを調べる授業だ。けいすけがけんたに、

「けんた、いっしょにいこうぜ。」

と声をかけて、二人はいっしょに行動することになった。

けいすけとけんたがむかった場所はS1広場<sup>①</sup>だった。そこは、フルビタ<sup>E</sup>汽車が二台おいてあるところだ。けんたたちの小学校が建っているのは、むかし汽車を組み立てる大きな工場があった場所だそうだ。その工場があった記念として、もう使われなくなった汽車がこの小学校の校庭のすみにかざられているのだ。

けんたは、S1ひろばに着くと、ふとあることを思い出した。それは、夜になるとこの汽車が二台ともうごいてあたりをバシリ<sup>F</sup>回るといふ言え<sup>つた</sup>だった。けんたはそれを<sup>②</sup>同じ小学校に通っていた中学生のお姉さんに聞いた。その時には、けんたはものすごくぞっとしたのだったが、けいすけもそれを聞いておびえるだろうかと思って、話<sup>③</sup>してみることにした。

「ねえ、けいすけ、知ってる？」

「何を？」

「この汽車、夜になると動くんだったって」

「えっ、ほんとに？」

けいすけは目を(②)、けんたの方に顔を向けた。けんたは、(やっぱり、けいすけもこわがったな)と思ったが、けいすけの口元<sup>G</sup>がだんだん上がって笑顔になってきたのに気がついて、全然<sup>④</sup>うれしくなくなってしまった。

「それ、すごいじゃんー！」

「う、うん、そうだね」

目を(③)いるけいすけに、汽車が動くことをこわがっているすがたは見せられない。けんたはあわてて話をあわ

せた。

すると、けいすけは、けんたから目をそらしてだまりこんだ。⑤そして、五秒<sup>びよう</sup>くらいたってから、もういちど口を開いて、こう言った。

「このまま学校に夜までいて、それがほんとうなのかたしかめようよ」

「えっ…」

けんたは、いっしゅん自分の耳を(④)。まさか本気ではないだろうと思っけいすけの顔をじっと見つめてみたが、けいすけはいつまでも真顔<sup>まがお</sup>で、じょうだんを言っている様子<sup>ようす</sup>はまったくない。けんたはすっかりあわてた。

問一 線のA～Gについて、カタカナで書かれているものは漢字に、漢字で書かれているものはそのよみがなをひらがなで書きなさい。なお、おくりがながひつような場合にはおくりがなも書きなさい。

A B  
C D  
E F  
G

(以下省略)

※無断転載禁止